

OTOGAWA

おとがわプロジェクトとは——1. 都市の持続的な経営、2. 良質な都市空間の維持・創出、
3. 民間が主導する官民連携まちづくりを目標に掲げ、岡崎市の中心部を流れる水辺空間の活用と歴史文化遺産を活かした
観光産業都市の創造とコンパクトシティの実現を目指すプロジェクトです。

 おとがわプロジェクト 

自分たちの
まちが
できるまで

GRAND DESIGN

CONTENTS
02 PROJECT FLOW 2015年度おとがわプロジェクトの全体像
03 GRAND DESIGN FORUM 新・岡崎の幕開け
04 QUESTION and ANSWER Q&A
06 INTERVIEW WITH LOCALS 市民インタビュー

OTOGAWA GRAND DESIGN Log

自分たちのまちができるまでとは、

岡崎市が主導する観光産業都市の創造と
コンパクトシティの実現を目指す

公民連携プロジェクトの記録集です。

第3号となる本号では、

グランドデザインフォーラムで発表された

乙川リバーフロント地区まちづくり

デザイン基本構想(案)に至るまでの

2015年度おとがわプロジェクトの全体像、

グランドデザインフォーラムで公民連携について

議論された「新しい岡崎の幕開け」

フォーラムでの二問「答をまとめたQ&A」

市民とこれまでを振り返り、

これからを呼びかける「市民インタビュー」を収録。

OTOGAWA
PROJECT

Vol.

プロジェクトフロー

2015年度

おとがわプロジェクトの全体像

3月6日のグランドデザインフォーラムで「乙川リバーフロント地区(以下、RF地区)まちづくりデザイン基本構想(案)(以下、基本構想)」が発表された。キックオフフォーラムから基本構想発表までのプロセスと関係性からおとがわプロジェクトの全体像を本ページで紹介する。

*基本構想の詳しい内容は、別冊「概要版」に掲載

「基本構想」の策定に向けて、2015年7月にまずキックオフフォーラムで行政と民間がそれぞれ果たすべき役割について意見交換を行った。同年8月に市民への普及啓発や課題の抽出による仮説の設定を目的に、RF地区内の具体的な敷地を対象とした提案作成イベントとして岡崎デザインシャレット(以下、シャレット)が実施され、そこで得られた知見をもとに、建築・まちづくりの専門家らによって「RF地区まちづくりに関する中間提言」が作成された。[詳細「本誌 Vol.1」参照]

9月から12月にかけて具体的な選択肢を提示しながら市民の声を汲み取ることを目的に、シャレットの成果物(提案書・模型)の展示会を様々な場所で催し、投票および意見交換を行った。

10月からは担い手の発掘・育成を目的に、まちづくりワークショップが開催され、4つの分

科会に分かれ、まちの課題を抽出し、専門家や行政も交えてそれらを解決する事業計画が練られ、先導的的事业(リーディングプロジェクト)として市長へ提案発表された。[詳細「本誌 Vol.2」参照]

それらと並行して、9月からは既存の施策および市民活動とのすり合わせなどの調整を目的に官民連携調整会議およびワーキンググループを設置し、3つの民間まちづくり会社と岡崎市関係14課で情報の共有及び方向性の調整が図られた。

さらに市民のまちづくりに対する意識の啓発と、先進的かつ専門的なまちづくりの実践者を招いたシンポジウムを開催した。(※詳細「本誌 Vol.1」「本誌 Vol.2」参照)

こうした経緯を踏まえて、まちの将来と実現に向けた事業推進のイメージを提示する「基本構想」がグランドデザインフォーラムで発表された。

グランドデザインフォーラム

新しい岡崎の幕開け

グランドデザインフォーラムでは、これまで積み重ねてきたRF地区の特性や課題に関する議論を踏まえ、新たなまちづくりの考え方と戦略を盛り込んだ「基本構想」が発表された。公民連携のまちづくり、地区の特性を活かした事業の組み合わせ。そして、継続的な仕組みづくりについて、公と民、当事者と支援者の立場を超えて熱い議論が交わされた。

パネリスト
内田康宏 | Yasuhiro Uchida
岡崎市長
泉 英明 | Hideaki Izumi
有限会社ハートビートプラン代表/
NPO法人もうひとつの旅クラブ理事/
一般社団法人水都大阪パートナーズプロデューサー
山田高広 | Takahiro Yamada
三河家守舎/NPO法人岡崎まち育てセンター・リタ
モデレーター
藤村龍至 | Ryuji Fujimura
建築家/東洋大学専任講師/
おとがわプロジェクトデザインコーディネーター
日時:2016年3月6日[日]19:00-21:00
会場:図書館交流プラザ りぶらホール

パートナー型の公民連携

藤村 | 「基本構想」は、推進体制やRF地区の課題などを整理し、公共と民間が共に投資を行う公民連携を前提に既存の社会基盤を活用することとしています。すでに公民連携で運用されている「水都大阪」はどのように取り組まれているのでしょうか。また、内田市長と山田さんは、公・民の立場で連携体制をどのように計画されているのでしょうか。

泉 | 重要なことは、このまちでどのように暮らしたいか、その時に、公共空間をどのように使うかを考えることです。「水都大阪」以前の中之島公園は、市民が集まる場所ではありませんでした。市民団体や個人に呼びかけ、公園で活動してもらうようになると、その光景を見た人たちに「自分もここを使っていいたい」という雰囲気伝わります。今ではたくさんの市民が中之島公園を日常的に使うようになっています。岡崎でも市民の願望を少しずつ実現してみること、それが「基本構想」のスタートではないでしょうか。

内田 | RF地区の開発は、歴代の岡崎市長や

商工会議所などがかねてから望まれていたことです。これまでものづくりを軸とした産業都市として栄えてきた岡崎で、歴史的文化資産や河川空間などの公共資源を用いた観光産業の育成を図るために着手しています。国や県、まちづくり関係の団体や有識者との意見交換や調整を経て、まさに私が市長のタイミングで状況が整ってきたこの事業を、私は天命と思って進めております。

山田 | 行政投資による公共施設に指定管理業者という立場で関わっていますが、この枠組みでは、業務改善はできても公共投資の削減や設定された目的以外のサービスを提供することが困難です。これからは、民間事業者が公共事業に対してリスクと責任を負うことで、ここにしかない、ここでしかできない公共空間の利活用や公的なサービスの提供が必要となってきます。私は民間の遊休不動産をまちづくりに活かそうと「三河家守舎」という会社を立ち上げ、将来的には公共事業や公共不動産の活用やマネジメントを民間事業者として担う形をつくっていきたいと考えています。藤村 | 山田さんがおっしゃっているような、公と民がそれぞれの役割を果たしていくパートナー型の公民連携というのは、まだ日本ではほとんど先例がありません。アメリカではニューヨークの産業転換やインフラ更新が重なった2000年代ごろに民間の力を活かした公共空間利活用の取り組みが始まり、現在では世界中から注目を集めています。

エリアごとの戦略と推進体制

藤村 | 「基本構想」の中では、RF地区を地域の特性や課題に応じて7つのエリアに区分し、各エリアの課題解決を牽引する6大プロジェクトを設定しています。東岡崎駅から中心市街地に至る[1] 駅西・セントラルアベニューエリア、河川と周辺の公有地を合わせて利活用していく[2] 岡崎公園・乙川エリアでは、民間事業者が公有施設の整備・運営を担い、より質の高い公的サービス提供を図ることを検討しています。また、[3] 駅東・駅南エリアでは北東街区の公有地を民間資本により整備し、[4] 祐金・菅生エリアでは住宅整備の誘発を図り、[5] りぶら・康生エリアも大きな民間投資を誘発することを、さらに、[6] 籠田・伝馬、[7] 六供・花崗エリアでは、民間の小さな遊休不動産を利活用し、新しい民間事業者を発掘・育成していくことも検討しています。エリアごとに抱える課題や特性が違うため、

状況に応じた戦略や推進体制を築くことが必要です。「基本構想」に先駆け、遊休不動産の利活用の方策を考えるリノベーションまちづくり事業「リノベーションスクール」が、籠田公園周辺で行われていましたね。

内田 | 「リノベーションスクール」には、まちづくりを実践・研究する専門家や学生だけではなく、地域の主婦も参加されていました。参加者による事業提案は、役所では見られないユニークなもので、とても刺激を受けました。特に感心した点は、事業を実施するための資金をどのように集めるか、投資をいかに回収するのかまで考えられていたことです。ともにまちづくりを進めていくパートナーとして、大変頼もしく感じました。

資源活用を通した都市戦略

藤村 | 「リノベーションスクール」をはじめ、RF地区の既存の資源をいかに活用していくかがカギとなっています。「水都大阪」ではどのように資源活用に取り組みされているのでしょうか。また、岡崎では今後どのような戦略で資源活用を進められるのでしょうか。

泉 | 川に面したビルの飲食店から水辺に張り出すテラス席を設置した「北浜テラス」では、事前にテラスの設置方法を行政と協議し、公有地占用部分の使用料やテラス設置費用を民間で負担しています。どのプロジェクトも事前に公共性とは何かを議論し、行政と民間がそれぞれ責任と役割を分けて取り組んでいます。期間限定の社会実験を通して世間の評価を得て、現在は常設化されたことでエリアの価値向上に貢献しています。

山田 | RF地区を細かく見ていくと、隣接する六供町や花崗町も比較的小さな投資で新しいまちのコンテンツを組み込んでいくことができる潜在性を持っていることがわかり、「リノベーションスクール」ではそうした活用提案が作り出されました。民間によるある種、社会実験的な活動を中央緑道や人道橋、河川敷のような公共空間にまで広がっていき、民間投資と組み合わせた公共空間の整備・運営・利活用を公民連携で進めていければと思います。



グランドデザインフォーラム 一問一答

グランドデザインフォーラム後半では、「基本構想」の中身や考え方が発表され、パネルディスカッションの内容に関する会場からの質問に答える形で、より具体的な議論が展開された。なお、想定以上に多くの質問が寄せられ、当日すべての問いに対して答えきれなかった質問と回答を抜粋して下段に掲載する。



会場で答えきれなかった 質問と回答

グランドデザインフォーラムでいただいたご質問のうち、時間の都合などでお答えできなかったものを抜粋して回答を掲載いたします。



基本構想の進め方について

戦略エリアというのがいくつかありますが、優先順位はあるのでしょうか。——女性・岡崎市松本町

優先順位をつけるのではなく、6つのプロジェクトが相乗効果を生みながら同時に進められていくというイメージです。その過程において、公民連携まちづくりの仕組みや体制づくりを確立していくことが大切ではないでしょうか。〔藤村〕

民間による開発ができない〔1〕の南北軸と〔2〕の東西軸に設定されている公共空間には、初動としては、公共投資が集中します。しかし、これからの計画・整備・運営は民間が主導する公民連携の形でやっていくことが必須だと思います。〔山田〕

事業は誰がどのように責任を持って実行するのか、どのように推進するのでしょうか。——50代男性・岡崎市康生町

〔水都大阪〕では、府・市・経済界が公共空間を活用したい民間事業者と管理者をつなぐPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）〔※1〕事業者を公募で選定しています。いろんな専門家が構成された外部の評価委員会が事業の評価、改善を行い、達成目標の管理をしています。〔泉〕

〔※1〕公共（行政）と民間が連携して公共サービスを提供する仕組み。公民連携とも言う。

Q——行政として「規制が仕事」という印象がありますが、本プロジェクトにおいては「社会実験」ということで規制緩和されていくのでしょうか？

A——これまで「規制が仕事」だった行政も、近年大きく変わってきています。公民連携体制下では、行政は最初から禁止するのではなく、どうしたら規制を克服できるのかを市民や事業者と共に検討していきます。これまで禁止されてきた公共空間の利活用を実現するためには、何か問題が生じた場合の責任体制を明確にし、想定されるリスクをいかに回避できるかを「社会実験」という形で検証する必要があります。その有効性が実証できれば、規制緩和が可能となっていきます。

Q——リバーフロント計画において、商業活性化策が不足しているのではないのでしょうか？

A——本事業は、公民連携による公共空間の整備・活用をきっかけに、大きな民間投資と小さな民間投資を誘発し、このエリアの暮らしに必要なサービスや、外からでも訪れたいくなる魅力的な集客コンテンツを充実させ、エリアの価値の向上を目指すものです。直接的な商業活性化は、小さな民間投資の担い手育成を図る「リノベーションまちづくり」や、OKa-Biz、（株）まちづくり岡崎との連携による「まちなか創業支援」や既存店舗の経営力強化が挙げられます。さらに、エリアの価値が向上し、民間資本の参入や集客力の向上が促進されることが間接的な商業活性化策につながると考えています。

本事業の特徴や独自性について

リバーフロント計画はどのような点で前例がない計画なのでしょうか。——40代男性・岡崎市内

デザイン会議のように民間事業者が公共空間活用の方針を決定していくということは前例がないのでは？公民連携の仕組みを行政でまとめ、その案をPPP事業者に権限ごと委託することは、行政にも相当な覚悟が要ることです。〔泉〕

包括的な視点で事業企画と都市計画の連携というのが先進的です。これからは地域の課題解決や資産価値向上のため、まちづくり部局だけではなく産業関係や観光関係の部局などとの連携が必須です。〔藤村〕

岡崎らしさや全体のビジョン・コンセプトが失われる可能性はありませんか。——無記入

中心市街地といっても、月日の積み重ねにより、歴史の継承や商業の集積、住環境整備など、それぞれエリアの特徴が異なります。〔基本構想〕で7つのエリアを設定した経緯も、それぞれの性格や特異性を活かした「岡崎らしさ」を創り上げていくことが意識されています。〔山田〕

中央緑道に四天王像を設置すること、ペDESTリアンデッキに家康公の騎馬像を設置することを計画しております。これは私が昔から念願に思っていたことですし、岡崎の市民の方が願っていたことなので、絶対に実現させたいと思っています。〔内田〕

Q——戦略エリア〔4〕祐金・菅生エリアの「継続的な観察を要する地域」とはどういった地域なのでしょうか？

A——これから同エリアの不動産価値が上がり、高層建築等の開発が見込まれます。その際に、エリアの回遊性や魅力を高めるため、1階部分に店舗を誘導したり、周囲の景観に配慮したデザインなどのルール作りが必要となります。その動向を適切に見極めるため、「継続的な観察を要する」地域としています。

Q——駐車場問題についてはどのような解決策を考えていますか？

A——一般的に、駐車場があれば必ずお客さんが来るというわけでもなく、逆に便利過ぎると目的の場所だけ訪れて用が済めば車で移動してしまうため、波及効果生まれません。RF地区は民間の駐車場も多いため、むやみに公営駐車場を料金を下げるわけにもいきません。まずは歩ける範囲で魅力的なコンテンツを集積すること、歩く際の障壁（横断歩道や歩道橋、段差など）

を極力減らすことに力を注ぎ、将来的に民営・公営駐車場の戦略的な配置およびネットワーク構築を図っていきたくと考えています。

Q——人道橋の橋上建築が実現すれば、国内では稀で非常に魅力的なコンテンツになりうるかと考えますが、その実現可能性は？

A——通常、道路として指定される橋だと橋上建築の実現は困難ですが、（仮称）乙川人道橋は公園橋であり道路交通法の制約を受けないという点で実現可能性はゼロではありません。ただし非常時に緊急車両の通行が想定されているため、車両の通行を阻害しないことが条件となります。そのほか相応しい機能や構造的な課題、資金的な課題（これは民間資本による整備・運営を前提としなければ難しいと思われますが）、景観的な課題等総合的に検討する必要があります。平成28年度以降に専門家の助言を得ながらその可能性を検討していきます。

民間事業者をどのように募るのか

民間事業者をどのように集めるのでしょうか。——50代男性・東京都

専門家や担当部署との連携をもとに基本方針の提案を行う「デザイン会議」の立ち上げを計画しています。デザイン会議でコンセプトとの整合性を検討し、民間事業者を公募することが重要だと考えています。〔藤村〕

エリアの可能性が伝わらないと公募しても事業者が集まらないことも考えられます。民間のニーズを調査し、場合によってはエリアの魅力をつくり、発信することも必要です。〔泉〕

大手資本に頼る開発が地元にとって良いことなのか、地元の資本を生かす方法ないのでしょうか。——60代男性・岡崎市美合町

公民連携で進めるということは、地元の資本を生かすということです。最初から外部資本に営業をかけるのではなく、地元産業の活性化を通じたエリアの価値向上のきっかけをつくり、その後、外部資本を呼びよせるきっかけになるのではないのでしょうか。〔山田〕

Q——市民の声を活かした事業展開をしてほしい。

A——市民の声の集め方や活かし方は、事業の規模や進捗により異なります。
1:これまでの経緯 | 平成25年度から26年度にかけて、岡崎活性化本部の主導により民間まちづくり関係者や有識者から構成される乙川リバーフロント部会（H26年度は乙川リバーフロント推進部会）において事業方針および計画が検討されました。
2:今年度の取り組み | 平成27年度は、それまでの計画の内容を土台にしなが、市民の関心を高めつつ議論を深めるために、複数の選択肢を比較しながら複数回の意見交換を行う「オプションアプローチ」という手法を用いた「岡崎デザインシャレット」を開催しました。また事業が着手され、より具体的、専門的な事業推進の検討段階に入ったため、「まちづくりワークショップ」「分科会」という形で4つのテーマに分かれ、適宜専門家のご意見を仰ぎつつ、市民が主体となって実施する事業提案を検討する場を設けました。

3:今後の展開 | 平成28年度は事業の進捗に合わせ、乙川河川の利活用公募事業、平成27年度から実施されている連携事業「リノベーションまちづくり」関連事業など、今までのご意見をいただく段階からまちづくりの担い手として参画・実践いただく段階に入っていきます。今後も政策立案から計画策定、実施、運営といった各段階において、市民の声と専門家の知見をつながながら、それぞれふさわしい市民参加の場の設定に努めてまいります。

Q——民間で事業をしたい場合の具体的なアプローチの仕方を教えてください。

A——PPPエージェン会社〔※2〕や公民連携室〔※3〕ができたあかつきには、それぞれが民間、行政の窓口になりますが、現時点では岡崎市乙川リバーフロント推進課にお問い合わせください。担当部署やまちづくり団体をご紹介します。

〔※2〕公共に代わって発注、計画、開発、運営を一体で進めている事業者で、公共事業を民間のノウハウを活かして推進する。
〔※3〕市内調整を担う行政側の機関で、継続的な公共投資と民間投資の誘発を複合的に推進していく。

市民インタビュー できること つなげること

「基本構想」が発表されるまで、専門家や行政だけではなく、たくさんの市民が参加していきました。さまざまなエリアで主体的に参加する市民のみなさんは、おとがわプロジェクトなどに何を期待し、『岡崎』の将来をどのように見据えて活動しているのでしょうか。インタビューから、なぜ『わたしのまち』に関わるのか、市民の一部の声をお伝えします。

- 1 なぜ参加しようと思いましたか？
- 2 参加しているプロジェクトに何を期待しますか？
- 3 これから参加しようと思っている市民に対して一言

菅生祭の鮮船に飾られる行灯の絵付け体験を企画しています。自身が描いた行灯が菅生丸と天王丸に飾られ、花火の夜を彩ります。

【菅生神社実行委員会】
奥村侑子 | Yuko Okumura

参加活動：歴史・観光まちづくり分科会ほか

1 岡崎は夏の花火がとて有名です。しかし、花火大会が菅生神社の祭礼であるという事があまり知られていないのが残念に思い参加を決めました。2 体験プログラムを通じて、参加者に岡崎市の魅力が再認

識できる場になることを期待しています。3 岡崎に関して大切にしているものはありますか？ 魅力を共有したい！ 皆と楽しみたい！ など、何か想いがあれば一緒に発信しましょう！

自身で絵付けした
行灯が飾られる菅生祭の鮮船



地元の木材を活かした取り組みをしたい。
地元の木材を使った屋台・ベンチの設置や、
地元産の薪・炭でBBQが出来たら面白いと思う。
豊かな森林は岡崎の宝なので、街で暮らす人たちに
木の魅力を知ってもらえるような場を作りたい。

【額田木の駅プロジェクト】
唐澤晋平 | Shinpei Karasawa

参加活動：かわまちづくり

1 乙川リバーフロントの計画の中に何らかのかたちで参画したかった。2 自分の暮らす額田(山)とまちが川を通じてつながり、中心市街地だけでなく乙川流域全体の活性化につ

ながるプロジェクトになってほしい。3 まちづくりの主役になれるチャンスです。一緒にワクワクする取り組みを創り上げていきましょう！

額田の閑伐材を用いた
ストリートファニーチャイ
提供：名古屋大学 都市の木質化プロジェクト



りぶらを拠点に、りぶら/岡崎城/空き家・空き店舗をつなぐような「お城と英傑ミュージアム」を基本構想の段階から若者と一緒に考えたい。例えば、日本100選のお城を模型とパネルで紹介し、それをまちなかの空き店舗・空き家に巡回する(移動ミュージアム)というのはどうか。

【地域住民】
成瀬安彦 | Yasuhiko Naruse

参加活動：Grandデザインフォーラム

1 乙川リバーフロントの計画を新聞で知り、開発の内容や将来像をより深く知りたくなった。2 りぶらが次世代を担う人材育成の拠点となるように、若者が集まれる場づくりと

仕組みづくりに取り組んでほしい。3 呼びかけの一言をみなで言い伝える様にする。「あなたの一歩が明日の岡崎を創る」

りぶらでいつでも取り組めるワークショップ



国籍やことばに関係なく、同じ市民として日本人市民も外国人市民も一緒にBBQしたり、スポーツをしたり、ワクワク楽しい時間を過ごせる場をつくっていききたいです。

【Vivaおかざき!!】
長尾晴香 | Haruka Nagao
参加活動：歴史・観光まちづくり分科会 ほか

1 岡崎市で起こっている面白い動きについて知りたいと思ったのと、自分も当事者として関わっていかたいと思ったので。2 岡崎市に暮らしているけれど、なかなか接点のない市民(例：若者と高齢者、外国人と日本人など)が参加することができる新

たな交流の機会が生まれること。3 自分が感じる「あったらいいのにな」を1人では形にできなくても、みんなでアイデアを出したり、協力することで実現できると思います。ぜひ一度参加してみてください！

地域に暮らす
外国人との交流イベント



龍田公園の魅力アップ！
(例：七輪ピクニック、ガーデンウエディング、
ベースカフェの運営)

【かごめ組】
天野めぐみ | Megumi Amano

参加活動：人道橋・中央緑道・龍田公園分科会/
リノベーションまちづくり事業ほか

1 地域住民なので。2 従来型の行政と市民の距離感のある進め方ではなく、共感から連携が生まれるワークショップのような開発であることを期待します。今後も市民が自分事のように関わり続けられるものに

なことです。3 どうしてもやりたことがある人は叶うまで続けてほしいです。それをサポートする人は必ずいます。キーワードは「共に栄える」です。

龍田公園に皆で持ち寄った
品を囲んでピクニック



(株)まちづくり岡崎として公共空間を利用した賑わい創出事業や賑わい拠点づくりを、個人としてはより多くの方が主体的にプロジェクトに関わるように仲間づくりをしていきたいです。

【(株)まちづくり岡崎】
松井洋一郎 | Yoichiro Matsui

参加活動：にぎわい創出分科会ほか

1 城下町である岡崎市の中心市街地が今後もまちの顔であり続けるために、地元の自分たちがしなければならぬと思っているからです。2 地元の商店街や商業者を巻き込んだ経済効果の期待できる取り組みに期待しています。3 今回の事業

は行政主体の事業ではなく、関わろうとするみなさまが主体として岡崎の顔づくりを自ら進めることが出来る事業です。少しでも興味を持たれることから関わり、実現してみませんか？ ぜひ一緒に参加しましょう！

公共空間を利用した
賑わい拠点創り



自分と同じ学生が楽しめることを考え、提案し、
岡崎のまちが若者の活気で溢れるようにしたい。
乙川より北側の自然が魅力的なエリアに
多く人を集めたい。

【地域住民/学生】
梅村 樹 | Itsuki Umemura

参加活動：岡崎デザインシャレット/おとがわキャラバン ほか

1 岡崎のまちが好きで、自分の住むまちのまちづくりに関わりたかったから。2 岡崎には何があるのか聞かれたときに、岡崎にしかない魅力を伝えられるようなまちになって欲しい。3 このプロジェクトに参加して

いる若者の割合がとても低いです。自分のまちに対していろいろ思っていることを言葉にし、行動してみませんか？ 岡崎を若者の活気溢れるまちにしましょう！

乙川河川敷で気軽に
楽しめるまちなかアウトドア



岡崎はハンドメイドの伝統産業が数多く息吹くまち。
工房や匠を観光資源として認定し、市民でバックアップ。
工房を訪ね匠の職人と触れ合えば、岡崎の観光が輝きます。

【おかざき塾】
大竹正芳 | Masayoshi Otake

参加活動：歴史・観光まちづくり分科会

1 岡崎城を含む乙川エリアの「歴史まちづくり」なら、当然、主役は家康公。でも既存概念に捉われないユニークな意見が聞けるかも、という期待から参加しています。2 活動を通して、ひとりひとりのメンバーが岡崎のシティプロモーションを担える

人材に育つこと。岡崎のコト、家康公のコト、いっしょに勉強しましょう。3 「家康公検定」合格が参加の条件です！(うそ)。岡崎を知ると、岡崎が好きになる。もっと好きな岡崎にしたい。そんな意見をみなさんから聞きたいです。

匠の技に触れるものづくり体験



子どもたちに遊びやスポーツ、
工作などを提供したいです。
特に、コミュニケーションを必要とする
団体のスポーツや遊びなどをしたい。

【Heart to Heart 岡崎】
犬塚正樹 | Masaki Inuzuka

参加活動：にぎわい創出分科会ほか

1 さまざまな分野で活躍する方々と力を合わせてするまちづくりに興味を持ち、参加しています。2 地域の活性化と人々との絆をつくる事。3 近年はコミュニケーション欠如と

言われる時代になってしまいました。そんな風潮を吹き飛ばすくらい楽しい事を共有しましょう！！

子どもと本気で遊ぶ屋外イベント



PROJECT TIMELINE

プロジェクトのタイムライン

平成25年度

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

内田市長が公約で掲げた「乙川リバーフロント構想」の具体的検討に着手「重点施策の基本方針」「エリアテーマ毎の基本方針」「推進体制」などをまとめた方針。

平成26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

平成27年度

- おとがわプロジェクト 発足
[岡崎・乙川リバーフロントプロジェクト地区まちづくりデザイン事業]

観光産業都市の創造やコンパクトシティの実現に向けて、新人道橋、プロムナード、ライトアップなどの「ハード整備」、かわまちづくり支援制度等を活用した「ソフト事業」を基本計画としてまとめ、国の社会資本整備総合交付金に申請、採択された。

- キックオフフォーラム開催

分節された政策や都市空間整備の仕組みの再統合を図る先導的的事业として、民間主導の官民連携まちづくりにシフトチェンジ。

- 第1回シンポジウム開催
- デザインシャレット実施[パブリックミーティング2回]
- シャレット展示会開催

- おとがわキャラバン in 市役所 開催

- 第2回シンポジウム開催
- おとがわキャラバン in 籠田 開催
- 中間提言発表

- まちづくりワークショップ[1] 開催
- おとがわキャラバン in りぶら 開催

- おとがわキャラバン in 中央緑道 開催
- まちづくりワークショップ[2] 開催

- まちづくりワークショップ[3] 開催

- グランドデザインフォーラム開催
乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン基本構想(案)発表
- グランドデザイン展示会開催

BACK NUMBER



OTOGAWA GRAND DESIGN Log Vol.1

キックオフフォーラム、シンポジウム、デザインシャレット、中間提言を収録



OTOGAWA GRAND DESIGN Log Vol.2

おとがわキャラバン、シンポジウム、まちづくりワークショップを収録

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』

平成27年度は全3回の冊子とグランドデザイン概要版の発行を予定しています。各号もぜひお手元で保管下さい。

概要版

Log Vol.1

Log Vol.2

Log Vol.3

発行元：岡崎市

発行日：2016年3月25日

監修：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

編集：浅野翔

デザイン監修：刈谷悠三+角田奈央/neucitora

デザイン：武村彩加

問い合わせ先：

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

tel. 0564-23-2888

mail: otogawaproject@okazaki-lita.com

Facebookは「おとがわプロジェクト」で検索